

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【対象者別】若者世代【概要】

日時：令和6年2月7日（水）

19時00分～20時00分

場所：女性総合センター

1 開会の挨拶

（市長）

皆様、こんばんは。本日は、平日のこのような時間にお集まりをいただきまして、大変ありがとうございます。昨年9月の8日より、立川市では第23代目となります立川市長に就任をいたしました酒井大史でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は若者世代ということで、社会人、経営者、そして大学生の皆さんに御参加をいただいているという中で、特に大学生の皆さんは立川市と包括連携の協定を結ばせていただいている中央大学、国立音楽大学、また東京女子体育大学の皆さんにも御参加をいただいていると聞いております。

私は中央大学、平成4年に法学部卒業で、市議会議員になった後に社会人枠で法学部の法学研究科民事法専攻で、もう退官されました福原元学長の門下で大学院を卒業いたしました。また、無理やり関連性を引っ張ってきますけど、国立音楽大学、うちの妻が出身でございます。大学院も一応、妻は私より勉強ができるので、首席で卒業をしているというふうに妻からは聞いております。本当かうそかは分かりません。それで、女子体育大学、何かつながりがないかなと、思い出しました。小学生の頃、プールが泳げなかった小学校2年生、3年生ぐらいかな、水泳教室に習いにいかせていただいて、50メートルは泳げるようになったおかげで、大学時代はウインドサーフィンをすることにつながったといった御縁がございます。

それ以外にも、若い世代の皆様方がお集まりをいただいているということ、またこのような機会ですらいろいろとお話をさせていただくことというのは、大変うれしく思っています。

なぜかと申しますと、私が市長就任をして、今お話にあった立川市においては令和7年から向こう10年間の長期総合計画、立川市をどうしていくのかということ、今審議会の中でも議論をいただいているんですけども、就任直後に審議会の名簿を見たときに、若い世代の方々の名前がなかった。これから10年先の話をするのに、何で10年後の立川市内の中で現役で活動をしている世代の方が審議会の委員に入っていないんだと、何とかならんのかという話をしたんですけど、何とかありませんでした。

ということで、今日こういった機会に御参加をいただいている皆さんの声を、私が代弁者として、向こう10年間の計画の中にもしっかりと溶け込ませていきたいというふうに思っておりますので、忌憚のない御意見を頂戴できればと思っております。どうか今日、限られた時間でございますけれども、お付き合いをいただきますように心よりお願いを申し上げます。

2 意見交換

(司会)

それでは始めましょう。御意見がある方は挙手をお願いいたします。そして、御発言の際は簡単なお住まいとお名前をおっしゃっていただいてからお願いしたいと思います。どうぞ忌憚のない御意見を活発に交わしていただければと思います。ぜひ本日は参加者の皆さんに一度は発言をしていただきたいなと思っておりますので、ぜひ積極的に御意見を聞かせいただければと思います。いらっしゃいますか。

では、あちらのスーツの方、お願いいたします。

(参加者)

今日はよろしく申し上げます。

(市長)

よろしく申し上げます。

(参加者)

早速なんですけれども、今日来る前、ホームページとかを見て、教育関連とかについても私は見させていただいて、大々的に小学校、または保育園とか、小さい頃に対するの支援、アプローチというのはとても大々的に掲げられているなど感じて、それは私の妹も2人おりまして、それはとてもお世話になっているんですけれども。小学生がどんどん大きくなっていくにつれて、中学校、高校、大学とステップを踏んでいく中で、そのステップを踏んでいけばいくほどお金がどんどんかかっていくのに、そこに対して、一番お金がかかる場所に対するの支援というのはあまり盛り込まれていないなどというのは見て思ったので。

例えば大学生の奨学金であれば、国からであれば年収400万、500万円以下の世帯であれば給付型が受けられますけれども、600万円とか、それこそ900万円とか、多分そこら辺が大体ボリュームゾーンになってはきますけれども、その世帯になってしまうとやはり支援は受けられない、給付型は受けられず貸与型になってしまう。そういうふうに漏れてしまうボリュームゾーンの人たちを、立川市として支援いただければとてもうれしいなどというふうには感じております。

(市長)

ありがとうございます。よく御覧になっていただいて、ありがとうございます。

私自身が今、子育て中で、55歳なんですけれども、45歳で初めて子供を授かりましたので、まだ上の子が10歳で下の子は5歳という中で、今、上の子は塾等々に通っていますけれども、ほんとにかかりが多いんですね。

やはり子育ての支援に極力お金を投入していきたいなど、これまで以上に子育ての部分に、ほかがどうでもいいという話ではなくて、少し軸足を変えていきたいというふうに思う中で、今回、学校給食の無償化が一番予算的には大きいんですね。小学校で4億3,000万ぐらい、中学校まで合わせると6億6,000から7,000万になるんですけれども、そういった部分についていわゆる子育て世代の皆さんの、給食という切り口なんですけれども、お金に色はついていないじゃないですか。給食費自体の負担が重いという方にはそれはそれでだし、あるいは給食費負担は重くないだけけれども、いろいろとほかのかかりがかかるという方にはその部分に使っていただければなということ。

ある意味、義務教育期間中というくくりにすると、立川市内に住んでいるほとんど、ち

よって私立の学校に行っているお子さんは外れてしまうんですけれども、小・中というくりで言うと、その部分が厚くなるのかなという思いで、そこにある意味特化した形で支援策を取り組ませていただきました。

今、御指摘のとおり、大学生、奨学金等も、卒業したときに学生ローンみたいな感じで、社会人になった瞬間から借金を抱えてという部分については、私も都議会議員を以前しておりましたので、財政力がある東京都なり国なりで、高校生以上、いわゆる高等教育と言われている部分の皆さんへの支援策というものを求めてきたという関係がありますけれども、なかなか、実現を一部しているところもありますけれども、そうでないところもあるということですので、御意見を頂戴し、確かにそうだよなと思います。

ただ、市の中でも財源をどういうふうに確保していくのかという部分もありますので、その部分についてもいろいろと検討をさせていただきながら、高校生や大学生の皆さんの、いわゆる経済的な部分についても考えていきたいなというふうに思っております。すぐにあげますと言えなくて申し訳ないんですけれども、そういう視点についてはかねてから思っているんですけれども、今の立川市の財政の中であるべく不公平がないような形で、子育ての支援の中で裾野を広げていきたいなということで取り組ませていただいたということで、御理解をいただければというふうに思います。ありがとうございます。

(参加者)

どうもありがとうございます。

(市長)

いいですか。もっと突っ込んでもいいですよ。「そうはいったってね」みたいな話で。

(参加者)

学校がモノレールで最寄りなんですけれども、モノレールの運賃が、立川北から中央大学・明星大学、往復で740円ぐらいする。とても高いので、定期は買わずに自転車で毎日通っていたんですけれども。何とかモノレールの運賃、安くならないですかねとは思ったものなんですけども。

(市長)

それについては立川市で独自でどうこうという話ではないんですけれども、一応立川も株主なんですよ、多摩都市モノレールの。ですので、そういったモノレールの会社のほうに、私も一応非常勤の、お給料の発生しない取締役にはなっておりますので、多摩都市モノレールの皆さんにも、定期の学割とか、そういった部分について大変だという御意見があるということは伝えさせていただきたいと思います。ただ、私が言っただけではなかなか変わらないんですけど。

私はずっと中央大学の第2体育館までバイクで、原チャリで通っておりました。モノレールは4年生までにできるようなうわさがあったんだけど、結局できずに卒業してしまいましたけれども、やはり多摩都市モノレールについては本当に高いなどは私も思っておりますので、そういったところで提案をしていきたいというふうに思います。

(参加者)

どうもありがとうございます。

(司会)

ぜひ提案を、市長、よろしくお願いいたします。

そのほか、いかがでしょうか。

では、前の黒い服の男性、お願いいたします。

(参加者)

よろしく申し上げます。

立川市クリーンセンター、たちむにいのロゴマークを作成、採用してもらって、以前環境フェアで、たちむにいの塗り絵をやっていただいたり、そういう御縁もあって、今日は来させていただきました。

(市長)

ありがとうございます。

(参加者)

今年度1年間、立川市でインターンシップとして卒業研究をしながら活動してきて、立川市の方たちと関わっていく中で、学生が思うことは何かというのをアンケートしたんですけど、そこで大学での学びを大学外で発揮できる場所がそこまで多くないというのと、もっと自分の能力を発揮できる場所というのを欲しがっている学生が結構アンケートでいて。これからの立川市と学生の関わりの部分とか、そういう機会というのをもっと欲しいというのを今回伝えてほしいというのがあったので、そういう学生との関わりの部分をこれからどういうのがあるのかなというのをお聞きしたいです。

(市長)

ありがとうございます。一つには、先ほど私の思いの中でも、立川市がいろんな計画をつくる時に、それをやっぱり若い、こういったおじさんの感覚ではなくて、奇抜な発想をぜひ取り入れていきたいなというふうに思っていて、今後そういう各種の審議会とかをやるときになるべく市民公募枠を増やしたいと思っていて、しかも、中でも若い学生の皆さんにも積極的に参加をしていただきたいなというふうに思っています。

また、ありがとうございます、たちむにいのデザインを考えていただいたということで。あの施設自体は前市長の時代に造っていただいたというもので、立川市は大変、懸案事項だったんですね、清掃工場。あの施設のいいところは、私がやったことではないんだけど、いいなと思う自慢話なんですけれども、今回能登で地震がございましたよね。たちむにいを造った会社と同じ会社が造っているらしいんですよ。地震があっても壊れなかった。壊れなかったんだけど、電気が途絶えてしまったから清掃工場を運転することができなかった。立川は自家発電、燃やした熱で発電をするという、だから動いている限り延々とスタンドアロンで動き続けるという、そういった施設になっているので、その部分については、震災が起きたときにも安全な施設を造っていただいて、そこに明星大学のそういう学生さんからの思いを入れたイメージをつくっていただいたということは大変うれしく思っております。

逆に質問しちゃってもいいかな。

(参加者)

大丈夫です。

(市長)

どういうことを立川市と絡みたいかな。そういうの、おじさんとかだと、今言ったような立川市のいろんな計画に絡んで、どんどん「こんなことやりたい」「あんなことやりたい」とかって言ってほしいという、そういった思いがあるんです。でも、その一方で、その計画をつくってもそれがどう具現化するの？ というところについては、ちょっとタイムラ

グとかが生じるじゃないですか。

単年度の予算の中で、大学生として立川市にこういうふうに絡んだら多分自分も楽しいし、ほかの市民も楽しいし、立川市にとってもいいし、三方よしみたいな形になるようなことをいろいろと提案してくれると、私は新しいものが大好きなので、大好物ですから、いろいろと御提案をいただくと逆にうれしいなと思います。

(参加者)

去年の夏に、たちむにいでたちむにいフェスというのを開きまして、そこでも、僕は4年生なんですけど、明星大学3年生と立川市の連携授業の企画が出た発表を実際に活動の中に組み込んで、実際にそういう大学のブースを設けて、ちっちゃい子に楽しんでもらったんですけど。実際に頻度も年に1回の機会しかなかったんで、そういう小学生も巻き込んだ何かというのはアンケートで実際に出ていた。

でも、運営面で多分費用とかたくさんあるので、なかなか学生から社会に向けて意見する場所もないし、意見できないというのがあったんです。まずは意見を言えるところとか、実際に毎月アンケートみたいなのか、いろいろいただけたらなみたいなアンケート結果が出ました。

(市長)

ありがとうございます。一つには、たちむにいフェス、今年も規模を拡大してやりますので、ぜひ引き続き御参加をいただきたいのと。

あと、ちょっとどういう出題にしようかなと思っているんですけども、私の50項目政策に掲げている中に、若者会議という、今よく子ども会議とか、この間も青少年健全育成の子ども委員会から提案書をいただいて、提案書をいただいたんだからちゃんとそれに応えていかなきゃいけないというふうに考えています。特に若い世代の皆さんの思いや声がしっかりと立川市の施策の中で花開いたり、あるいは策として、例えば「幾ら予算をつけるから、この中で何か立川市で面白いことをやってみない？」みたいなことを、若者会議でただ議論して、はい、市長に言ったけれども何も起こらないというのじゃ、やりがないじゃないですか。ですから、若者会議を設置して、それに対してそこで受けた提言については何か実現をしていくというような会議体、ただ話すだけではなくて、政策実現型の会議体をつくりたいなというふうに思っているんです、実は。

ただ、どうやって仕掛けをしていったら若い人たちにそれが遡及をして、そこに、募集をかけたけど「あれ？」ってなっちゃうと、ちょっとかっこ悪いなというところもあるので、少し土壌を、しながら、高校生ぐらいから、20代、どんなにアッパーでも30代ぐらいまでの方を対象にした、立川市をよくしていくために一緒に考えて提案してくださいという会議はやっていきたいなと思っています。

その中で、例えば小学生を巻き込んだとか、あるいは先ほどいろいろと学習の支援とか子どもの支援という話をしましたけれども、世の中にはなかなか勉強したくても勉強できない子とか、僕もふらっといろんな施設を回るように、抜き打ち的に行ったりするんですけど、よくこのところでも、横で、自分で自習している、宿題をやっている子だとか、地域の学習館とかでもあるんですね。なかなか塾に通える子、通えない子がいるじゃないですか。例えばそういった夏休みの宿題、集中取組キャンペーンみたいなのを、例えばなんだけれども、夏休みに学生の皆さんに、大学生の皆さんに御協力いただいて、小学生の宿題の追い込みをやろうやとか、そういうのも何かイベントとして、ただ「勉強しない？」

というよりも、少し楽しくなって、皆さんにも、多分そんなにたくさんお金は出せないと思うんだけど、記念品程度に何かできたらいいなとかいうのは、おぼろげなんだけど、自分の中では考えていたりします。

よろしいですか。

(参加者)

ありがとうございます。

(市長)

ちょっと漠然としていて、申し訳ないです。

(司会)

ありがとうございます。

そのほか、御意見、御質問などございませんか、ぜひ。

お願いいたします。そちらの女性です。

(参加者)

こんにちは。

(市長)

よろしく申し上げます。

(参加者)

よろしく願いいたします。

私を感じた立川市の魅力をお伝えしたいなと思うんですけども、私は『クレヨンしんちゃん』で知られている埼玉県春日部市に住んでおまして、御縁があって4年間、立川に通わせていただきました。立川はとても交通も便利で、緑も豊かで、飲食店やららばーなどもあって、とても住みやすい市だなと感じております。昭和記念公園で友人とピクニックをして楽しんだり、4年間、コロナ禍に入学したんですけども、とても充実した大学生活を送ることができました。3月で卒業になってしまうんですけども、なので立川にはなかなか来る機会も減ってしまうんですけども、もし機会があったら立川に住みたいなどは考えております。これからも緑がいっぱいで心が落ち着く場所であってほしいなと思います。

以上です。ありがとうございます。

(市長)

ありがとうございます、お褒めをいただきまして。

私はずっとこの立川に55年間住んでおまして、僕の子どもの頃はまだこの場所自体が基地の中で、ちょうどこの道路の隣辺りに基地のゲートがあって、今の高島屋とか、あそこら辺に映画館があったんですけど、もうちょっとパレスだとか、今サンサンロードとかいうところにヘリポートがあったんです。どちらかというとなら駅前でもずっとヘリコプターのモーター音がしているというようなときが、僕の小学生ぐらいのときで。その後、いろいろと先輩たちが今のようなまちづくりをしてくれて、駅前のにぎわい、住宅地があって、さらに都市農業、そして公園と、緑あふれるような公園ができているということで、そこを魅力に感じていただいて、大変うれしく思います。

ぜひ春日部から立川市に引っ越してきてもらうには、あと何があったらいいですかね。

卒業されて、卒業後は何かお仕事は？

(参加者)

児童館に勤めることが決まりました。

(市長)

どちら？ 立川市？

(参加者)

東京の台東区。

(市長)

台東区か。勝てないかな。

でも、うちの妻も、音楽大学の学生時代に知り合っちゃったんですね。よくなれ初めを聞かれるんですけども、たまたまちよっと石を蹴飛ばしたら妻に当たったと、そうやってごまかしているんですが。

ほんとに立川は唯一の大学が国立音楽大学、でも国立と書いてあるから立川じゃないみたいなイメージなんですけれども、近くには芸術大学があったりとか、いろんな芸術家の方々を応援していけるようなまちにもしたいなというふうに実は思っています。

これ、ほんと先の長い話なんですけれども、アマチュアで、それはそれで楽しいんですけど、音楽大学を出ていても、プロになって、お金稼げる人はほんのごく一部じゃないですか。また、大学の先生になれる人もほんのごく一部で。ただ、何か自分の才能を生かして、芸術の分野で、この立川の中で活動しながら、例えば普通の音楽教室でも何でもいいと思っているんですよ。そのきっかけを立川がつくる。何年かしたらちゃんと独立してねと。その人たちが地域の子供たちにも教える機会をつくったりというところで、立川を、少し芸術分野でも裾野を広げていきたいなというふうに思っています。

いろんなこと、何かをするときって、高みを目指していくのって、裾野を広げないと、より目標というのは高くなっていかないので、いろんな人がまちに関われるようにしていきたいなというふうに思っています。

いつの日か台東区から立川市の児童館に転職をするか、ぜひ今のうちに立川市で婚約相手を見つけていただくなり何なり、別に何でもいいんで、とにかく里帰りを、Iターンをしていただければと思います。私の任期中に立川に引っ越そうと思ってもらえるようなまちづくりをしていきたいなと思っています。

ほんとにお褒めをいただきまして、ありがとうございます。

(参加者)

ありがとうございます。

(市長)

よかったですね。私が市長になる前の皆さんの取組が褒められる、うれしいよね。

(総合政策部長)

ありがとうございます。

(司会)

そのほか、いかがでしょうか。

では、あちらのセーターの女性、お願いいたします。

(参加者)

抽象的な疑問で恐縮なんですけど、私は大学で立川市の決算カードを分析しまして、それで、立川市は毎年、実質収支比率がかなりよくて、安定していて、立川市独自の収支だ

けでやってきているのでいいなと思うんですけど、逆に良過ぎてあんまり税収に対して使っていないような感じがしてまして。それは何でなのかなという、ちょっとした疑問です。

(市長)

ありがとうございます。立川市の決算カード、学部は経済学部だとか？

(参加者)

関係ないです。

(市長)

関係ない。マニアックですね。

決算カード、今はかなり有名になったけど、僕は26歳で市議会議員になったんですが、その当時は議員でも決算カードの存在を知らなかった。僕がほかのところで決算カードなるものの存在を議員のときに勉強会で知って、当時の立川市の財政課長に、「決算カードってあるらしいですよ」と言ったら、驚かれました。さらに予算を組むときには、今は財務省ですが、当時大蔵省から地方の財政を立てていくということがあったんですけど、大学生で決算カードを知っているってすごいなと思います。

決算カードを見ると、財政力指数、今おっしゃっていただいたんですけど、それによって地方交付税の交付団体、不交付団体というのが決まります。立川市は比較的財政力が豊かと言われているのは、やはりこういう商業地ということもあって、税収が一定程度見込める。また、都市化をしていくと固定資産税が立川市の中での税収で占める部分が大きいということで、地方に比べると財源、税源が比較的安定をしている。

過去で言うならば、競輪を立川市ではやっていて、その昔は競輪1年間の、上がりって言っちゃって分かるかな、競輪って売上げ、車券を買ってくれた人に戻す割合が75%なんです。宝くじよりも返金率が高い。宝くじは六十何%だったかな。だから、宝くじは買ってもほとんど当たらない。でも、競輪やれとは言っていない。今、大体競輪から最終的に、75%は買ってくれた人に返金をして、残りの25%の中で施設の維持だとか選手の賞金だとか、そういったものをして、最終的に残った部分で大体2億円ぐらいを立川市に繰入金という形で、収入として、財源として使っています。

その昔は、いつか一番いいときは70億円とかだったな。そのときに、まだ多分僕らも、今ここにいる市職員も恐らく立川市に関わっていなかった時代だと思うんですけど、その当時たくさん施設を、お金があったんで造りました。

現在のところまだ財政的には比較的余裕があると言われておりますが、ただ財政力指数の計算の仕方も……、要は今ふるさと納税ってあります。ちょっと話があっちこっちに行っちゃって、散らかっちゃって申し訳ないんですけども、立川市では7億円、毎年、本来立川市に納めてもらうべき税金が市外に行っちゃっているんです。この7億円って、さっき言った小学校、中学校給食の無償化ができるお金。もしかしたら7億円がふるさと納税で流出しなかったら、大学生の奨学金をばばんといけるかもしれないというお金が出ていっちゃっているという現実もある中で、ただ、地方に関しては地方交付税の交付団体は例えば10億円出ていっちゃいました。でも75%、7億5,000万円は国が補填をしてくれる。でも、立川市のような不交付団体に位置づけられるまちは、その部分については補填をしてもらえないので、丸々7億円、なくなっちゃいます。

なので、見せかけ上はよく見える。財政力指数のところも、最終的に地方交付税の交付

団体か不交付団体になるかというところで、ぎりぎり悪いんだっとなっちゃったほうがいいじゃん、国からお金もらえるからって思うんだけど、なろうとしてぎりぎりの線を攻めていくと、そこでブラックボックスがあって、変数が掛かるんだよね。何となく悪くなったんだけど交付団体になれなくて、お金は来ないということもあって、それがゆえに健全財政を進めていこうということで、前の市長のときにいろいろと人件費だとか何とかって、押さえて押さえてというふうにやっていました。

今回、私が予算の編成をして、もうすぐ正式に発表するんですけども、その予算も前の市長のときと同じようにあんまり貯金は取り崩さないようにという形で、今までちょっと余裕を持って予算を組んでいて、結果として何十億円か年度末になると余っていました。余りましたというお金をより精査して、さっきの給食の問題だとか、いろんなそれ以外の障害者の方への用途を、例えばがんの治療をして、その後オストメイトって聞いたことがあります？ ストーマ等のあれももうちょっと補助を厚くしようよとか、あるいはがんになって髪の毛抜けちゃってウィッグをつけると、アピアランスケアの部分についても、今まで立川市ではやっていなかったんだけど、予算のやりくりをうまくやってやっていこうということで提案をしているんですけども。

ただ、今のところはいいんですが、最大の悩みは、先ほど話した立川市は昔お金があったんで、ほかの市よりも早く学校だとか、そういった施設を整備して鉄筋にしているんで、その更新時期がちょうど今、来ていて、建て替えをしなくちゃいけないんですが、今すごい円安でしょう。円安というのは輸出産業にとってはいいのかもしれないんだけど、日本は円高、円安という言い方をするけれども、これ海外だと自国通貨が強い、弱いという言い方をするんですよ。円で言えば、円が今弱い状態、ほかの通貨と比べて。そういった状況の中で、ほとんど輸入しているじゃないですか。だから、資材価格が高騰していて、例えば小学校の建て替えをしようと計画を最初にしていたときに比べて、なかなかその金額では落札しない。また、今、工事現場等で働いてくれる労働者の方がいないと。これから震災の復興もあるから、ますます多分いなくなると。

要は、当初計画していた倍ぐらいお金がかかっちゃう可能性があるって、財政の計画的にはかなり厳しい計画だと思っていて。僕自身はいろんな、子供たちのためとかもあるから、学校の建て替えとかいうのはしていつてあげたいんだけど、ただそればかり優先をしていて、借金を積み重ねて将来に負担を過剰に残すようなことがあっちゃいけないというふうに思っていて、どうやって財政の規律をしていこうかなというふうに考えている中で。

今、見ていらっしゃる決算カードというのは、過去の数字です。これから未来が見えるわけではなく、過去の傾向は分かる。だけれども、未来においてはそこに表れてこない部分について、立川市も公会計の制度等々も副次的に……、普通の、今、日本の財政というのはお小遣い帳なんですよ。幾ら入ってきて、幾ら使いました、残り幾らです。その中に貯金を幾らしようとか何とかではなくて、その予算を使ったことによって、どういう資産がそこに生まれているのかということ複式簿記で捉えていこうということもやっている中で、多分、恐らく過去につくった計画をそのまま実行すると、僕は10年以内に立川市は財政破綻するんじゃないのかなというふうに危惧しています。そうならないようにどういうふうにしていこうかと思っています。

ちょっと答えになっているかどうか分かりませんが、決算カード、今はいいです。

だけれども、だから使っていないということではなくて、使いたいものがいろいろとあるんだけど、やりくりをしないと決算カードの数値が恐ろしく悪くなる可能性もあるということを知っておいていただければなというふうに思います。

話、長いね。一生懸命説明しようと思って。

(司会)

ありがとうございます。財政の内情もお話ししていただきました。

(市長)

間違っていないよね。追加ありますか？

(総合政策部長)

いや、大丈夫です。

(企画政策課長)

市長も建物についてお話しして、立川市の貯金は意外とあるなというところは、結構見えているんだと思うんですけど、令和3年度決算で大体貯金で100億ぐらい。それプラス、建物を、さっき言った更新するための貯金として170億ぐらい。

(市長)

170億。

(企画政策課長)

あるんですね。1校学校を建て替えると、幾らぐらいか分かります？ 直近で建て替えたの、若葉台なんか40から50億ぐらいかかっているんですね。そうすると、じゃあ170億あったとしても何校で使い切っちゃうかというのと、全部基金でやるわけじゃないんですけども、そうすると5校ぐらい造ったら終わっちゃう。小学校は、立川19、あと中学校もそのぐらい、10ぐらいあるんですけど、じゃあ残りはどうするのというところがあるので、そこは計画的にやらなきゃいけないということで、少しそういった貯金も、少し立川のほうは計画的に積み立てています。そういったところがあります。

ほかのところは、立川市以外のところは、国から交付金が結構来るんですけど、さっき言ったように立川は不交付団体ということで、もしものための貯金というのも一定程度ためていかなきゃいけないということもあって、財政に余裕があるからできるということもあるんですけども、そういったもしものためと、将来的な負担というのも実際考えて運営をしているというのが実態です。

補足ですみません。

(司会)

ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょう。

ありがとうございます。では、そちらの、お願いいたします。マイクをお返しします。

(参加者)

こんばんは。私は立川市への思いと、あと少し意見を話させていただければと思います。

大学生になっていろいろな場所から学生さんが集まっているので、初めましての子とお話しするときに、まず最初に「地元どこなの？」「どこに住んでいるの？」という話題が一番最初に上がりやすく、そのときに立川に住んでいると言うと、みんな「ええ、いいな」と、映画館もあるし商業施設もあるし、昭和記念公園もあるし、いいなってすごい羨ましがってもらえて、私もすごい立川に住んでいることが自慢なんですけど。自分自身も都会

に、都心に遊びに行ったとしても、結局立川の駅に戻ってくるとすごい安心するというか、やっぱりここが地元だなというふうに安心する場所なので、すごい立川市が大好きで、これからもずっと立川にいたいなと思っています。

(市長)

ありがとうございます。

(参加者)

意見としては、企業がもう少し立川に来てくれればなというところの企業誘致のところなんですけど、友達と、先ほど話したように話していると、「じゃあ立川に住んでいるなら、交通の便もいいし、いいね、就職も」と言ってもらえて、立川市外で働くことが前提みたいな感じで友達から言われることも多いんですけど、私としては立川市で働きたいなというところがあるので、そういうイメージが立川市はあるのかなと思っていて、できれば企業がもう少し立川市に来てくれて、立川市に住んでいると言ったら、「じゃあ地元でも選択肢があるね」と言ってもらえるようなまちになればいいなと思っています。

(市長)

ありがとうございます。高松町で、ずっと立川？じゃあ二中？

(参加者)

そうです。

(市長)

じゃあ、二中の後輩ですね。すごい。本当に同じまちの同じ空気を、年数は違うけれども吸っていた。立川自慢をしていただけた、とてもうれしいです。

企業誘致の話なんですけれども、一つには、今、立川の商工会議所さんが、立川のイノベーションファームということで、立川市で起業をしてもらえるようなところを増やそうという、そういった取組を今進めています。

私が市長になってからなんですけど、立川市も、よく行政が中小企業だとか商業支援をするときって、苦しいから、倒産しちゃいそうだから助けてみたいな形で補助金を出すとかいう形ってよくあるんですけど、それじゃああんまり意味がないと僕は思っています。延命のために幾らお金をつぎ込んでも駄目なものは駄目なので、それよりは、今苦しいんですけども、何かアイデアとかイノベーションを起こすことによって、要は企業が成長していけるような事業計画なり何なりというものをつくって、それに投資をしてもらえるような形での産業振興を図っていきたいというふうに考えながら、今、立川の中では観光振興だとか農業振興のプランはあるんですけど、産業振興のプランというのがないんですね。勝手にうまく、商業者の方ですから、今、立飛さんとかが頑張っただけのまちにしたいんだんですけども。

じゃあ、僕の目標としては、今、立川は交流人口がとても、交流人口ってほかから遊びに来てくれる、立川いいねと言われるように、映画館に遊びに。そういった人たちが立川をただ単に遊びに来るまちだけではなくて、住んでもらえるようなまちにしていきたいために、いろんな支援策を打っていこうということを考えています。いわゆる明石で泉さんが、前市長がやったようなことも、少し立川の中では取り入れていきたいなと。

もうちょっと、さらにいいことをやりたいなとかいう、あまりお金をかけずにできることを僕の中では常に考えていて、さらに何か一つをやったことによって二重、三重の効果が生まれるようなことをやりたいなということを、いつも思考回路の中では考えるように

しています。

そういった中で、企業誘致等々に関しても、じゃあ、まずは既存の企業をどうするのかというところで、今のそういった成長に向かっていけるようなきっかけづくりにお金を出すと、もうけてもらってまた立川市に税金を納めてもらえばいいということもある。

その一方で、立川、商工会議所というのはあるんだけど、商の部分については注目をされているんだけど、工業の部分についてはなかなか注目をされていない。結構いろんな技術を持っている工業もあるんですよ、中小で。有名なそういった会社はないんだけど、ただそういった工業の人たちがこれまでいろんな地域の中で工業交流展だとか何とかをやっているんだけど、なかなかそれだけでは商圏は広がらないじゃないですか。いろんな見本市とか何とかというの、大きい企業はビックサイトだとか、そういったところでやっていると。

であるのなら、今、産業振興の担当の課長とお話をしているのは、立川だけのことを考えてちゃ駄目なんだよねと。だから、例えば今、何でも八王子から立川へと来ているけれども、八王子市さんともちゃんと連携をして、別に立川で何かイベントをするというのに、そこは八王子市さんでやってください。八王子市との先には何かあるかという、相模原市がある。だから、そういった広い商圏の中でいろんな工場があったり、あるいは工業系の学校があるというところまで見据えて、立川の工業を盛り立てて。そこに働いてくれる人がいないと潰れちゃうじゃないですか。そういった部分で商圏を広げながら、さらにそこに技術者が集まるような仕掛けを、小ぢんまりとしているのではなくて、少し裾野を広くして取り組んでいきたいなということと、やはり立川を起業の地として選んで、食住直近になれるようなまちを、これは商工会議所さんとも考えながらつくっていきたいなど。

ただ単にお金をかければいいのかということではなくて、僕の感覚の中では何か事業したいとか、何かイベントしたいというときには、アイデアをどうやって提供してもらおうのかと。アイデアに対して投資をすることによって、それが、お金って普通に使ったらなくなっちゃうじゃないですか。だから、投資だよ、いわゆる。何かお金を立川市がすることによって、それが二重にも三重にも何回転もすることによって、経済というのは正のスパイラルへと向かっていくと思うので、そのような立川市としての財政、商工業だけではなくて農業も含めて、支援をしていきたいなというふうに思っています。

よろしいですかね。

(参加者)

ありがとうございます。

(司会)

では、あと1人、2人でお願いしたいと思いますので、一番後ろの男性の方、お願いします。

(参加者)

よろしく申し上げます。

私の意見ではなくて、私の知り合いの大学生の方からの要望になるんですけども、立川市内で学習スペースが少ないという御意見をいただいております、これは昨年の清水市長のときのこのイベントでもほかの方から出ていたんですが、今、立川市内では中央図書館の3階の部分だけであると、実質。

私からのアイデアベースではあるんですけども、立川市内には町内会館が94か所ありま

して、これは市に確認しました。これもほんとにアイデアベースではあるんですけど、町内会館が、お祭りのときとかは使っていますけど、24時間必ずしも使っているわけではないので、例えば町内会館の空きスペースとかを使って、そこで大学生の方とかに学習スペースを開放することによって、地域の交流とか、あとはおじいちゃん、おばあちゃん頑張ってるみたいな交流も含めた学習スペースの創出ができるのかなとはちょっと思っています。このことについては、富士見町の町内会の方に確認したところ、いいですねみたいなことはあったんですが。

一つの要望で言うと、学習スペースを増やしてほしいという御要望がありまして、お話しさせていただきました。

(市長)

ありがとうございます。学習スペースが少ないということは、僕もほんとに、先ほどもちょっとお話しいたしましたけど、ここの横のロビーのところだとか、あと地域の学習館等のロビーで勉強しているお子さんたちが、学生の皆さんがいて、これ、大学生より多分高校生ぐらいの方も多いのかなと思っている。

なかなか多分そういう方たちって、家では勉強しづらいとか、なかなか大学、中央大学とかだと図書館広くてとかあるんだけど、なかなか行き帰りのこともあって難しいという中で、特に学習館とかだったら、利用者もいるからあれなんだけど、空いている部屋なんか貸してやればいいじゃないかと。それこそ週で予約が埋まらなかったところとかいうのを、例えばこういう部屋だって、貸館だから一応ちゃんと利用の申込みをしてくれる人が優先ではあるんだけど、使っていない、ただ箱だけ空っぽにしておくのはもったいないよなと僕の間感の中では思っています。

だから、学生さんたちのそういった勉強スペースというのはつくっていききたいなというのは思っています。

今、町内会の自治会の会館というお話がありましたけれども、それも自治会の皆さんがオーケーをしてくれるんだったらありなのかなと。ただ、一つには、こういった会館は一応管理人がいるじゃないですか。町会の会館とかだと、じゃあ責任をどうするのかというところが一つハードルになるのかなという。そこさえクリアができれば、それは資源の有効活用という面ではいいのかなというふうに思って、今、そういうアイデアもあるんだということで、今後の参考にさせていただければと思います。

(参加者)

ありがとうございます。私も全く同じことを思って、例えばこういうアームとか未来センターとかのこういうスペースが、当日とか3日以内とかで予約されていない場合というのは、そのまま当日も予約されずに終わるじゃないですか。だとしたら、市長がおっしゃったように、そのときに当日とか3日以内で空いている会議室は無料で開放して、大学生の勉強スペースもできるのかなとっていて。今後ともどうぞよろしくお願いします。

(市長)

ありがとうございます。これ、すぐに実現する話じゃないからちょっとたわ言だと思っ
て聞いてほしいんだけど、どこが空いているのか、そのときにならないと分かんない
じゃないですか。さっき答えてくれた企画政策課長が、「え、そんなことある？」と、こ
ういう例えば会議を、市長とかの、「メタバースでやったらどうですか」と。「え、僕
のAvatarつくるの？」とかいうので、ちょっとまだ早いんじゃないという話にはしたん
ですけ

れども。

でも、今後、市のDX化を進めていく中で、例えば一つのシステムとして「立川市の学習スペース空いてます情報」みたいなものを、各館だったら、今おっしゃったように、今日当日でも、今日の夜何時から何時までどこの館のどこのスペースだったら空いていますよというようなことを、学生さんとかに登録をしておいてもらえれば、ラインでも何でもいいと思うんですよ。一番安くやるんだったら、ラインで登録しておいてもらったら、そこに「今日の空き学習スペース情報」とか言って発信をすれば、行ったけど空いていなかったとかということにならなくて、あんまりお金もかかなくてできるんじゃないのかなとかというふうに、僕の中では簡単に考えているんだけど。多分……。

(総合政策部長)

もともと夏休みとかは、このAIMもそうで、女性総合センターもそうですし、地域の学習館は予約が入っていなければ、そこはそういった学習スペースで、今やっていますので。

(市長)

オーケーなのね。

(総合政策部長)

それを今言われたようにラインでとか、いろんな情報をSNSとかで発信をしながら皆さんに利用してもらおう、それをまた夏休みだけではなくて通年で使ってもらえるようなシステムは、また考えていければなというふうに思います。

(市長)

ちょっと今思いつきで言っちゃったんですけど、できそうですね。

(総合政策部長)

いや、すぐにとは。

(市長)

すぐにとは言っていないと。じゃあ、少し待っていただけるとできるかなという。

(総合政策部長)

夏休みとかはやっていますので。

(市長)

じゃあ、取りあえず夏休みから試行実施をしていければいいかと、今の枠の中で。徐々に慣らしながら広げていければ、皆さんにとっても学習スペースが生まれるという、お金をかけなくていいので取り組んでいきたいとします。ありがとうございます。

(参加者)

ありがとうございました。

(市長)

じゃあ、前の方。

(司会)

では、最後のお一人ということになりますが、お願いいたします。

(参加者)

こんばんは。

私、三、四年前ぐらいに上京してきたんですけど、先ほどあったように、立川に来ると安心するというのが私にもあって。最寄りが玉川上水の駅なんですけど、やっぱり上京す

ると東京ってちょっと怖いかもというイメージがあったんですね、個人的に。でも、そういうのがなくなるぐらい安心感があるというのがあって、すごく住みやすい。最初は東京なんかすぐ出てやるみたいなのがあったんですけど、でも立川にずっと三、四年ぐらい住んでいて、ここなら実家と同じぐらい安心して快適に過ごせるから、住みやすさがすごくあるのではないかなと思いました。

(市長)

ありがとうございます、お褒めをいただきまして。玉川上水の辺りというのは、僕も、僕高校が今、国立音楽大学の後ろに上水高校ってあるんですけど、その変わる前身の学校だったので、まだ地下の、今アンダーパスになっていますけど、昔踏切だったんですよ。それをずっと高校3年間自転車で。

そういった緑と水も流れていて、さらにあんまりうるさくないというところがいいのかなということで、お褒めをいただいてありがとうございます。

あと、何か足りないことは、何か？ほら、それだけだと、褒められて終わっちゃったでつまらないんで、あとこれをやるとさらに推せるんだよなというのがあったら、教えていただいて。

(参加者)

住みやすく快適というのもあるんですけど、それと同時に、夜寝られないぐらいうるさいというのが私の家の周りにはあって。多分ローラースケート、スケートボードで。今、立飛辺りに専用の施設みたいなのができている、それ、すごくいいなと思ったんですけど。そういうのを造るのも多分スペースがないから大変かもしれないんですけど、そういう施設があるよというのの発信があったら、そんな道端でやらず、いいのかななんて思います。

(市長)

ありがとうございます。このスケボーの苦情は、市長への広聴はがきで本当に多くいただいているんです。一番苦情が多いのがこのフェアレの中と、あとサンサンロードのところ。今おっしゃっていたのはムラサキスポーツさんがちゃんとしたコースを造っているんですけど、実は今工事中なんですけど、イケアの隣のところにスケートボードパークがもともとあって、ちょっと路面が悪くなっちゃっているんで、今その補修をしています。

取りあえず、そこにあるよということを促していこうと。柏町のほうでもそういう状況があるということなんで、一旦はそう促していこうと思っているんですが、その一方で、これはこの間子育て世代の皆さんとのタウンミーティングをやったときに、「いやいや市長、ストリートスケートボードというのがある、まちでやっているのを、こんなかっこいいのをこの場所でできましたというのをインスタグラムだとか何とかに上げるのが楽しくてやっていて、そういう人たちはまちでやりたいんで、幾ら施設を造っても駄目ですよ」と。ああ、そうかということもありながら、じゃあ道路交通法上で取り締まれるのかという、警察にもいろいろとお願いをしているのですが、なかなか難しい。

今のところ軽犯罪なのか。あれも、スケートボードって自転車でもないじゃないですか。それをどういうふう位置づけるのか。本当に、なかなか造ってこっちに誘導するだけで解決しないようだったら、何か条例をつくることのできるのかとか、いろいろと今後模索していかなくちゃいけないんだよなと。やっぱりあちこちでスケートボードをやっている方がいらっしゃるので、その部分については、今後いろいろと検討していきたいと思っています。

(参加者)

ありがとうございました。

(司会)

あと、あちらの方が、いかがでしょうか。お願いいたします。

(参加者)

社会人なんですけれども、私は転勤族で、今、立川市に3年ほど住んでいます。先ほどあったように、たちフェスであったり、非常に立川に住んでいると楽しい催しがあって、ほんとに土日も非常に楽しく住まわせていただいております。

ちょっと気になるのは、昭和記念公園より西辺りですか、よく暗いなというのが感じるところでして。街灯も少ないですし、小・中学校等も多いとは思いますが、これから、やっぱり立川市はお子さんが住みやすい環境だと思っておりますので、どんどん家族連れが住まわれていくのに対して、もうちょっと明るくなればいいのかなど、住んでいる身としては感じました。

以上です。

(市長)

ありがとうございます。昭和記念公園の西側、西立川駅より向こうですよ。実は昭島なんです、実は。

(参加者)

すみません。北もそうですか。

(市長)

北側は確かにそうですね。

西側に関しては、今、昭和記念公園さんが昭島口の入り口を造る計画をしているらしく、今、都市計画決定をこれから東京都のほうでしていくことになると思うんですけど、そうすると東中神駅から昭和記念公園に向けての辺りというのは大分変わってくるのかなという印象、という計画があります。

また、北側については、ちょうど夜になるとほんとに暗いんですよ。立川の学校の給食調理場等々があるだけで、昼間はあれなんですけど、夜は誰もいなくなっちゃうので。そこら辺の照度の問題については、やはり地域の方が安心して歩けるといいうところもあるので、一度道路課とかそういったところに、一般的な道路の照度として足りているのかどうなのかというところは確認をしてみたいと思います。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。

忌憚のない御意見、そして御質問をたくさんいただきました。ありがとうございます。そろそろお時間になりましたので、よろしいでしょうか。

(市長)

大丈夫？ 別に僕的には時間いいんだけど、何も言わないで、聞いていてつまんなかったと、ちょこっと最後に市長にぶつけてやりたいんだとかいうのがあれば。無理強いはない。

(司会)

何かございませんか。

(参加者)

本日タウンミーティングに参加するに当たって、私は市内在住ではないんですけれども、市内在住の社員の方に聞いたところ、自転車のところで、通常車道を走らないといけなかつかと思うんですけど、路駐している車が多くてなかなか、お子さんがいる方なので、なかなか車道を走ることが難しい部分が結構多いということをおっしゃっていて。だからといって歩道も狭いので、非常に危ないということは常に感じているということをおっしゃっていました。

私、損害保険会社勤務なので、日常的に交通事故の対応をしていますけれども、やはり自転車事故というところで非常に増えているところでもありますので、ちょっとそういった、優先順位等あると思うんですけれども、都市計画の中でどのように計画されているかなというところをお伺いしたいです。

(市長)

ありがとうございます。市内全域、同じような状況のところがあると思うんですけど、南口に関しては歩道が狭いじゃないですか。車道が基本なんだけれども、歩道を走るときには歩道の中の車道側を自転車は通行するというのが一応ルールとして決まっているという中で、なかなか駐車車両は、これは警察に取り締まるといっても、今、取りあえずそれで、昔はレッカーで移動していたりしたんですけど、取りあえず黄色い紙をぺたんと貼られてということもあるんですが、そういった取締りを強化してもらうということで駐車違反の抑止をしていくということは一つあると思うのと。

あと、根本的には……、すずらん通りとかって、イメージつきますかね。あそこは、この時間ってもうすごいじゃないですか。だから治安の問題もあるんだけれども、ただ、これ、地域の人になかなか御理解をいただかないとあれなんですけど、歩道もなかなか広げられない。昔の議論の中では、コミュニティ道路で、じゃあ一方通行にして歩道を広げたらみたいな、そういった話もあったようなんですけども、ただ一方通行にするのはかなり、沿線の住民の全ての皆さんが了解しないと交通規制をかけられないとかいう話があった。一方で、それ以外に、じゃあセットバックしてくれるかというとなかなかできないということもありますので。既存のまち並みができてしまっているところは、地域住民の皆さんとの協議の中で、根本的にやるにはそういう一方通行化をして歩道を広げるということしかできないのかなと。

新しくまちづくりをしていく中では、今、ナビサインであるとか、自転車走行帯という、国立なんかは広い通りだから、大学通りも何もみんな車線減らしてでも自転車走行帯をつくった。現にさくら通りだとか大学通りだとかはやっていると思うんですけども、なかなか立川内において車線を減らしてそれをつくれるというところも、なかなか現状では少ないという中なんですけれども。

いただいた御意見は御説ごもつともだと思いますが、今後の都市計画を考えていく中で、その視点はしっかりと取り入れていくようにしたいと思います。ありがとうございます。

3 閉会の挨拶

(市長)

本日は、1時間という限られた時間の中で、若い皆さんの御意見を頂戴できましたこと、本当に私にとっては大変うれしく思っております。

やはり未来をつくっていくのは皆さんじゃないですか。私、どう考えてもあと何年、55歳だからあと30年ぐらいは生きていようかなとは思っているんですが、ただ市長として多分在任が確実にできるのはあと3年半。頑張って市民の皆さんに選んでもらっても、どこかで飽きられるので、十何年かなという、そういった中で、私自身が歴史を振り返ったときに、あのときに酒井が市長をやっていたから立川のまちって振り返ってみたらもっと自慢できるようなまちになったよねというふうに思ってもらえるように、市政運営には当たっていかうと思っております。

そして、今、この立川に住み続けたいと言っている方、また台東区から引越してきたというふうに思っているように、さらには転勤ということでいろんなまちにお住まいになられている方が、最後リタイアしたときにやっぱ立川かなというふうに思っているようなまちをつくっていくためには、ほんとに柔軟な、そして既成概念にとらわれない……、だんだん年を重ねていくと、多分僕も、ここにいる4人はほぼ同じ世代、昭和の40年前後に生まれている世代ですので、人間年を取ってくると新しい発想ができないんですよ。しょせんこうだろうとか、こういうもんなんだと思っちゃう。なるべく僕自身は、子供も小さいので、気持ちだけは10歳若いつもりでいようというふうに思っていますが、若い皆さんがいろいろと意見を言ってもらって、あるいはぜひ将来的に、酒井なんかには任せておけないから、俺がとか、私が市長になるんだというぐらいに立川のまちを愛してくれる人が出てくることを、僕自身は期待をして、それまで、僕を打ち負かさずやっが出てくるまで頑張ろうかなというふうに思っています。

ぜひとも、今日のほんのひとときでございますが、一期一会ということもありますので、まち中で、あの地域に住んでいるから僕うろちょろしますので、会ったら、「ああ、市長」と、市長じゃない「おう、酒井」でもいいし、声をかけていただければ、また時間があればその場でもお話をさせていただければなというふうに思っております。

今日いただいた御意見、あるいはお褒めの言葉もしっかりと、僕以上に多分、市の行政長らく当たってこられた3人は胸に染みていると思います。市役所の職員の皆さんにとっても、自分が携わっているまちを褒めていただくことというのはやっぱり今までやってきたことを評価していただいているということですので、とってもうれしいと思うんですよ。

そういった市民の皆さんにありがとうと言われるような行政にはしていきたいと思いますので、これからもいろいろと御意見をいただければと思います。市長への広聴はがき、ばんばん送っていただいて構いませんので、よろしくお願いします。

本日は本当にありがとうございました。

— 了 —